

なごやぬいぐるみ病院活動報告書

文責 名古屋市立大学3年 永田浩貴

概要

実施日時：平成23年8月29日 10時30分～12時

実施場所：対象：小1 9人 小2 5人 小3 6人 小4 3人

学生参加者：24名（4年2人、3年11人、2年6人、1年5人）

当日の流れ

時刻	グループA(児童8人)	グループB(児童8人)	グループC(児童7人)
10:30~10:45	アイスブレイキング(後だしジャンケン)		
10:50~11:05	お医者さん体験	保健教育2	保健教育1
11:10~11:25	保健教育1	お医者さん体験	保健教育2
11:30~11:45	保健教育2	保健教育1	お医者さん体験
11:45~12:00	片づけ、あいさつ、撤収		

保健教育の内容

今回、以下のテーマについて保健教育を実施した。

・ 応急処置(保健教育1)

<テーマを選んだ背景>

・ もう一つのテーマである「血液と循環」に絡め、身近な応急処置の方法を通して、人間の体内に流れる血液についての理解を深めるとともに、いざというときには子供でも実践しやすい鼻血の止血法と RICE 法についてある程度知ってもらおうという考えから、今回はこのテーマを選んだ。

<この健康教育を通してどの様になって欲しいか>

・ 簡単な応急処置の方法を子供たちに伝えることで、間違った方法で応急処置を行わないようにしてもらおう。万が一のときでも自分たちである程度はできるようになればとても嬉しく思う。

<方法>

・ はじめの自己紹介中に、学生の一人がいきなり鼻血を出し倒れる。それを介抱する学生がわざと間違った方法を実践し、倒れた学生は体調が更に悪くなってしまった。子供たちにどこをどうすればよかったのか考えてもらったのち、自分たちの考えた正しい止

血法を前で実践してもらおう。その後、解説役の学生が正しいやり方を子供たちに教える。

次に、先ほど鼻血を出した学生が転び、絆創膏では血が止まらないほどの怪我をした設定で、応急的な4つの処置の仕方(Rest, Icing, Compression, Elevation; 安静にする、冷やす、圧迫する、高く上げる)を倒れた学生を使いながら実践してみせる。その後、子供たちと復唱して発表を終わる。

<その方法を選んだ理由>

・ただ話を聞いているだけではすぐに退屈になってしまうことが予想されたため、できるだけ子供たち自身にも考えて実践してもらい、飽きさせないように工夫した。また、自分で考え、正しい方法と自分の方法を見比べることで、より強く印象に残ることも期待してこの方法を行った。

RICE法についても本当のところはこのような実施の仕方を取り、子供たちにも体験してもらいたかったが、時間、人員がともに不足していたこともあり、今回は子供たちには見てもらうだけにした。

・血液と循環(保健教育2)

<テーマを選んだ背景>

運動することで働く体の機能の一つに心拍数が増加することがある。そこで今回の保険教育を通して、児童に心拍数とは何か、また、その具体的な測定方法、運動する前とその後での心拍数の変化を実感してもらおうことで、体の仕組みの一部を理解してもらえたらと思い、このテーマを選んだ。

<方法>

血管や心臓が描いてあるレインコートを着た人を見本にして、心臓の働きについて説明した。その際、血液が何を運ぶのか、物質の輸送について絵を使って説明した。

その後、心拍数が何を表しているのかを説明し、実際に児童に心拍数の測り方を教えた。まず平常時の心拍数を15秒間測定してもらい、その後走り回った後の心拍数も測定した。心拍数を測った後には、児童それぞれに自分の名前を書いた付箋を心拍数の回数が書いてある表にはってもらい、運動前の心拍数と運動後の心拍数の変化を実感してもらった。

最後に、今日学習したことを確認した。

<その方法を選んだ理由>

レインコートを着た人を配置することによって、実際にどのように血管が流れているのか、心臓の位置を理解してもらおうようにした。児童と一緒に走り回ることによって、児童に楽しんでもらい打ち解けることができると考えたため。

お医者さん体験の内容

前回（春実施のとき）好評だったお医者さん体験を今回も行った。今回は保健教育の内容と関連させてケガ（骨折、打撲、捻挫、傷）のみに絞って行い、レントゲンを使用し、それぞれの時間で代表の子1人にボタンを押してもらい、写真は各ブースに配布してあるという状態で行った。

総括

保健教育 1

<工夫した点>

なるべく子供たちが頭を使う機会を多く取り入れ、話を聞くだけで飽きてしまうようなことができるだけ無いようにした。実践を取り入れ、自分の解答と正しい答えを比較することで、より印象に強く残ることを意識した。

また、一回一回の動きを派手にすることで、子供たちにインパクトを与えることも狙った。

鼻血や怪我をした際の血は、口紅や赤マジックを使って塗った。

<参加学生の反応>

・学生側は、割と簡単な部類の応急処置を選んだこともあり、当日はスムーズに演技や説明を行うことができていた。

ただ、台詞を全部記憶できておらず、台本をちらちら見ている学生が若干いた印象もあった。

<園児の反応（よい反応が得られた点について）>

・自分の考えを実践するところでは、「自分がやる！」と意欲満々な子供の反応を見ることができた。

全体を通して割と受けがよく、保健教育としてはまずまずの反応が得られた。

<園児の反応（よい反応が得られなかった、もしくは収拾がつかなくなった点）>

・子供のテンションが上がりすぎて、お話を聞かなければいけないところでも口紅の血などに突っ込みを入れて、話を聞かない子がいた。

<失敗した点>

・口紅はすぐ取れると思っていたが、思った以上に取れにくく、また足の怪我に使ったりすると衣服を汚してしまう欠点があった。

あとは、実践を行うときとお話を聞かせるときの子供たちのメリハリを学生側でコントロールしきれていなかったというのと、台本を覚えきっていないために、いまいち流れをつかみきれていない人がいたのが失敗したと思った。

<その他>

・今回は三角巾法による圧迫や、解きやすい結び目の作り方など、一部をカットした部分がある。

保健教育 2

<工夫した点>

レインコートに血管を描くことによって児童たちの気をひいた。心拍数の測り方を教えたり、一緒に走り回ることによって、児童とより打ち解けることができると考えた。

<参加学生の反応>

練習時間が少なかったため、少々戸惑いがあったが皆楽しんでいました。

本番は、はじめは少し緊張していたが、子供たちがはしゃいでいる様子を見て徐々に緊張がほぐれ、練習通り行うことができた。しかし予定よりも時間がかかってしまった時や、心拍数がうまく測れなかった時に、少し戸惑ってしまい、うまく対応ができなかった。

<児童の反応（よい反応が得られた点について）>

一緒に運動することによって児童と交流することができ、児童もみんな楽しんでいました。レインコートを着た人が児童にいじられることが多く、レインコートを使って児童の興味をひくことにも成功した。

<児童の反応（よい反応が得られなかった、もしくは收拾がつかなくなった点）>

児童はみんな賢くて、心臓の位置、さらには血液の働きについて知っている生徒もいて、知っているという声が多かったことが気になった。レインコートに描いた血管が少なく、血管が少ないことについての児童からの指摘もあった。

<失敗した点>

心拍数の測定が血管がとても小さくて血液量も少ないからなのか、成人以上に難しく、学生が測ろうとしても分からないことがあった。

お医者さん体験

<工夫した点>

子供に主体的に考えてもらうため、フローチャートを廃止し、カルテのみで行った。その代わりに、カルテは診断を選択式にするなど、子供にとってわかりやすいように行った。また、レントゲンが1つしかなかったため、代表の子をくじで決めて、写真は各ブースに配布してあり、全患者がレントゲンをとってあるという設定で行った。

看護師役もケーシーを着用した。

<参加学生の反応>

おおむね楽しんでくれていたようだった。ただ、お医者さん体験は園児がやってくれないと先に進まなく、困ってしまう場面も見られた。

<園児の反応（よい反応が得られた点について）>

普段できないことを体験できるということで、かなり楽しんでくれていた。実施回数を重ねることで、親しみを持ってきている子も出てきたと思う。

白衣や聴診器が特に初めての子には珍しく、興味を持ってもらえた。

<園児の反応（よい反応が得られなかった、もしくは収拾がつかなくなった点）>

実施に慣れてしまい、聴診器のような器具に目新しさを感じない子も出てきている。ぬいぐるみを使ったのをやりたいという声もあり、また高学年の子は聴診器やレントゲンは知っており、得られる知識がないように感じた。

<失敗した点>

子供の学年による違いに対応できなかった。目新しいものをあまり提供できなかったこと。あまり積極的で無い子に対してどう楽しんでもらうかなど、もっと練習できれば良かったと思う。

保健教育とシフト交代時間が合わないことがあった。

<その他>

簡単な病気を実際に直してみたい、子供だけのお医者さん体験をやってみたいという声があった。

改善点

保健教育 1

<失敗した点を踏まえての改善点>

- ・まずは、リハーサルの徹底をすること。単純な台本確認だけでなく、動きについても十分に打ち合わせを行い、当日スムーズに動けるような準備をしておく。

- ・子供をコントロールするための技術を、ぬいの人全員で身につけておくことが必要。メリハリがつけられずに子供が話を聞いていなかったりしたら本末転倒。

- ・可能ならば実施時間の延長もできるといい。今回、時間が短かったために削った部分もいろいろあるので。

<アンケート結果を踏まえての改善点>

- ・子供たちの能力が思った以上に高かったため、保健教育の内容を考えるときのパワーバランスには注意すべき。

- ・当日の流れを全体で打ち合わせ、なるべくブースごとで終わり時間に差ができない

ようにするとなおグッド。

- ・マジックで描いた傷を消すためのアルコール綿があるといい。
- ・訪問前にある程度準備できるところは準備すべき。傷を描くとか。

保健教育 2

＜失敗した点を踏まえての改善点＞

前日の練習での変更点があったりして、前日練習に参加できなかった人への確認ができなかったため、しっかり確認をするか、準備期間をもう少し早くする必要がある。児童の血管が測ることができるのか、あらかじめ検討しておく必要がある。

＜アンケート結果を踏まえての改善点＞

児童は自分たちが思っている以上に知識が豊富であり、台本通りに進むことはないため、アドリブで対応する。また、指摘されそうなところは初めから調べておく。高学年の児童には、少々難しい知識も提供できるようにする。

お医者さん体験

＜失敗した点を踏まえての改善点＞

高学年の子、前回もお医者さん体験に参加した子にも目新しいものを提供できるように、病院案内や薬局など今までにないものを取り入れると良い。

いろいろなタイプの子に学生皆が対応できるように気をつけて練習すべきだった。本番の流れを保健教育と合わせてシミュレーションしておくと思った。

＜アンケート結果を踏まえての改善点＞

保健教育とお医者さん体験の終了時間がずれたときのつなぎのプログラムがあるといいと思った。親子で参加したいという声があった、今後、学祭のように親子で参加できる場所で行うことも考えたい。子供同士でのお医者さん体験のように子供ができることをもっと増やしていきたい。

学年ごとに内容を変えるか、どんな学年の子にも楽しんでもらえるような工夫が必要。

以上